

ジャズ批評 7月号 (No.192) 2016年6月24日発売。

特集タイトルは「ベスト・オブ・トランペット 50」に、

大変光栄な7ページ、特集記事を掲載して頂きました！

心より感謝 外山喜雄 恵子

特集 **ベスト・オブ・トランペット 50**
 みんなの人気者、ジャズ・トランペット
 レジェンドから新進気鋭までトランペッター 50名を紹介！
 ロングインタビュー：外山喜雄・恵子

隔月刊 since 1967 **ジャズ批評** 2016 **7** No.192
 JAZZ CRITIQUE MAGAZINE
特集 **ベスト・オブ・トランペット 50**
 みんなの人気者、ジャズ・トランペット
 レジェンドから新進気鋭までトランペッター 50名を紹介！
 ロングインタビュー：外山喜雄・恵子

STEREO TIME BOOKER LITTLE
 Series 2000



7ページ、特集記事

夫婦でジャズ、夫婦でサッチモ、夫婦でニューオーリンズ 50年(笑)

夫婦でジャズ
夫婦でサッチモ
夫婦でニューオーリンズ
50年(笑)

外山喜雄・恵子

LONG INTERVIEW

レイ・アームストロングやマイルス・デイヴィスなど、先頭に立ってシーンを引っ張るのはトランペッターだった。とくにレイ・アームストロングはジャズの王様としてリスナーからも演奏者からも愛され続けている。ここでは「日本のサッチモ」ことジャズ・トランペッターの外山喜雄さん。そして喜雄さんと共にデクシー・セイツを結成、ピアノとバンジョーを演奏する奥様の恵子さんにお話を聞きました。ニューオーリンズ滞在時のお話や日本と海外のジャズに対する考えの違いなど内音雄辯が光ります。 聞き手 堀 高紀

Profile
 外山喜雄 (トランペット、ボーカル、サッチモ、ニューオーリンズ50年ジャズ、マイルス・デイヴィス 16mmフィルム、コレクター)、恵子 (ピアノ、バンジョー、アコースティックギター) 夫婦でジャズに生きるジャズ夫婦、日本レイ・アームストロング協会会長

サッチモ、デクシーとの出会い
 「デクシー・ランド・ジャズ、レイ・アームストロングに興味を持ったのですか？」
 喜雄 幼少時代まではビッグバンドでは自分だけのソロをとってほしいという小節から10分程度。そのための当時のミュージシャンは、より自由を求めてビープップ。そしてモダン・ジャズへの流れが生まれました。その一方でジャズのオーケストラという動きもありました。ニューオーリンズ、リバイバル(ディキシーランド・リバイバル)と呼ばれていて、その後の流れがモダン・ジャズと一緒に日本にもやってきました。
 高紀 喜雄さんの「リズム・アワー」というラジオ番組ではニューオーリンズ・ジャズを専門に選曲してました。機嫌でも「ダレシヤミラージュ」や「ニュー・グッドマン物語」、『5つの楽譜』などジャズを題材にした映画が日本でもヒット。僕がサッチモに魅かれたのは、そうした影響が強いのです。と同時にサッチモ・ジャズも好きで聴いていたんです。アート・ブレイキーが面白く大ブレイク、高紀さんの店先で「モーニシ」がやかかってきたりもした時代でした。でもソロに入るとサッチモ・ジャズには難しくて、スウィング・ジャズやデクシーのほうが聴きやすかったりもします。ちょうどそんな時期に高校に入学してブラスバンドに入ると、先輩たちもジャズに憧れてグレン・ミラーの曲を聴かされていたんですよ。そこで先輩

からレイ・アームストロングという人を教わってもらって、今度はレイ・アームストロングに興味を持つわけですね。高紀さん一人の「ジャズの歴史」という本にも大きな影響を受けました。レイ・アームストロングの自伝『My Life in New Orleans』の扉巻を見つけて、苦勞して読んでレイ・アームストロングがますます好きになり、英語の勉強にもなりましたね。大学に進学し、高校時代から出入りしていた早稲田大学ニューオーリンズジャズクラブに入りました。
 —そしてジャズの道になってしまっこと、
 喜雄 大学生だった1983年64年頃にすこいジャズの巨人の家日ラッシュが過ぎて、オウント・ベイシー、ライオネル・ハンブロン、デューク・エリントン、レイ・アームストロングからエラ・フィッツジャラルドまでたくさんのミュージシャンが来日しました。ニューオーリンズから戻ったバンドと共演するジャズ・レイ・アームストロングも来日して3ヶ月と日本にいたんだけど、大阪周辺での公演でした。友達と一緒に夜行列車で大阪まで行くのわいわいけど泊まるお金がなかった。そこで隣の客室土音のなかに寝泊りしながらコンサートを観に行きました。とにかく聴きたいという気持ちが強かったんです。そうやって会場に出入りしているうちにバンドのメンバーと一緒に演奏を聴かせてくれました。それに感銘を受けて、コンサートを観るときは必ず裏口から行くようになりました(笑)。
 —早稲田大学ニューオーリンズジャズクラブで恵子さんと出会ったわけですね。恵子さん